

平成 29 年度の堅果類の豊凶状況と出没予測について

1 堅果類の豊凶状況

(1) 樹種ごとの作柄の年次比較

樹種_年	H29	H28	H27	H26*	H25	H24	H23	H22*	H18*	年次比較
ブナ (高標高地)	不	凶	不	凶	並	凶	豊	凶	凶	$H23 > H25 \geq H29 = H27 > H22 \geq H18 = H24 = H26 = H28$
ミズナラ (高標高地)	不	並	不	不	不	並	並	不	不	$H28 = H24 \geq H23 \geq H29 > H25 \geq H27 \geq H26 \geq H22 \geq H18$
コナラ (低標高地)	並	不	不	不	不	並	並	不	不	$H29 = H24 \geq H23 > H25 = H28 \geq H18 \geq H26 \geq H27 \geq H22$

豊：豊作、並：並作、不：不作、凶：凶作。* H18, H22, H26 は、秋にクマが大量出没した年。

(2) 標高域ごとの作柄の概況

○高標高域（奥山）

- ・ブナ：生り年にあたるものの、豊作の個体は少なく県全体の作柄は不作であった。
- ・ミズナラ：県全体の作柄は不作であった。

○低標高域（里山）

- ・コナラ：県全体の作柄は並作であった。

2 秋以降の出没予測と対策

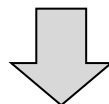
(1) 過去の出没状況との比較結果

- ・秋の大量出没年だった平成 18 年、22 年、26 年は 8 月中旬以降にクマの出没数が増える傾向にあったが、今年はその傾向にない。

(2) 堅果類豊凶調査の結果

- ・ブナは豊作の個体は少なく不作であったが、生り年あたり平成 27 年と同程度の作柄であった。ミズナラは不作であったものの、並作であった平成 23 年に次いで高い水準であった。

現時点での総合的判断



平成 29 年の秋は、クマ大量出没の可能性は低いと判断される。しかし、今年の春のクマの出没件数は過去最多となっていた。また近年、低標高域におけるクマの生息も確認されている。こうしたことから、地域によっては低標高域でのクマの活動が活発になり、平年秋よりも出没件数が多くなる可能性がある。クマの活動が活発化する 9~11 月にかけて、出没情報に注意を払うとともに、集落へクマを引き寄せないよう集落内の栗や柿の管理、生ゴミや農作物残渣の撤去などの対策が必要である。